

カンボジアの縫製業

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク (I-GLOCAL)

はじめに

10月上旬、世界銀行とアジア開発銀行は、2013年のカンボジアの経済成長率予測をそれぞれ7%、7.2%と発表した。経済成長の牽引役としては輸出好調の縫製・縫靴業、堅調な観光業と建設業が挙げられる。以前レポートした観光業に引き続き、今回はもう一つの経済成長牽引産業である、縫製業についてレポートする。

カンボジアの産業構造

カンボジアの産業別 GDP は農林水産業（第一産業）とサービス業（第三次産業）に占める割合が相対的に高い一方で、製造業（第二次産業）の占める比率は外資系企業の進出が進んでいるとはいえ、まだ低く、隣国のタイやベトナムと比較しても低水準に留まっている。縫製業（繊維・衣類・履物）については、製造業全体の60%を超える高い比率を占めており、偏りのある産業構造となっている。

カンボジアの縫製産業

縫製業がカンボジア最大の製造業に成長した理由は、1996年にアメリカ及びヨーロッパから一般特惠関税制度・最恵国待遇を付与されたことで、関税免除もしくは低関税が適用されることとなり、主に台湾、中国、香港からの外国投資がカンボジアに縫製工場を設立したためである。カンボジア国内では原材料となる繊維や生地を調達することが出来ないため、企業は海外から原材料を輸入し、カンボジアで生産、製品の輸出、もしくは最終工程のみをカンボジアで行うという形態を築いている。縫製産業は継続的に輸出額の70%～80%を占めており、輸出産業の牽引役ともなっている。

カンボジア商業省のデータによると、2013年1月～3月期の縫製品の輸出額は13億4000万ドルで、前年同期比17.5%の増加、縫製用機械や素材の輸入額は7億5300万ドルで、同18.3%の増加と、順調な伸びを示している。この成長の背景としては、一般特惠関税制度や最恵国待遇が付与されている他、安価な労働コストを生かした労働集約型産業に適していることや政府による投資優遇制度が整備されていることが挙げられる。

安価な労働賃金

カンボジアの最低月額賃金は2013年10月時点で80ドル、諸手当を含めた賃金水準も90ドル～120ドル程度となっているが、これはタイの約1/3程度の水準で、周辺諸国と比べて優位性があり、また「2013年中間年人口調査」では、15歳～64歳の生産年齢人口の占める割合が65.5%と2008年の62%より上昇し、今後も労働人口の増加が見込まれている。

中国での人件費高騰や労働力確保の困難により、中国からの代替先として東南アジアへ拠点を移行する際、カンボジアが生産拠点として選ばれる理由となっている。また、カンボジアでの縫製業の6割以上が中国・台湾・香港の企業からの投資となっている。

投資優遇制度

カンボジアの投資優遇制度は、企業ではなく案件に対して税制面での恩恵を与えている。この恩恵を享受するには、カンボジア政府の投資許認可機関であるカンボジア開発評議会へ適格投資案件の申請を行い、認可されると、最長9年間の法人税免税や原材料、工業建設用資材、生産設備の輸入関税免税等の税制優遇を受けることが出来る制度となっている。土地購入を除いては、外国資本であることを理由とする投資規制は無く、外国直接投資は奨励されていると言える。

このような背景からカンボジア縫製業協会（GMAC）への加盟する縫製企業は2013年6月現在、約420社となっているが、毎月4、5社程度の新規加入が続いている状況である。更に未加盟企業も含めると縫製工場は600ヶ所にも達すると見られている。

今後の課題

低廉な賃金が魅力である一方、工場で働く労働者の技術が低いことが課題となっている。そのため、高い技術を必要とする刺繍やレース等の加工が必要となる製品については、中国で生産を行い、非熟練労働者が製造可能なTシャツやジーンズ等の単純工程のみの製品についてはカンボジアで生産する等の方法がとられており、自社で熟練工を育てていく体制を築く必要がある。

また、労働環境改善や賃金引上げ要求等のストライキの発生により、生産量の落ち込みにつながったことから、労働者が基本的生活を送ることが出来るような賃金の見直しを行い、労働争議の鎮静化を図ることが期待される。

中国での人件費高騰や労働力確保が困難であることがカンボジアへの生産工場移転を後押ししているが、カンボジアの人口が1500万程度に留まっていることから、カンボジアで生産出来る数量には限界があり、他国にも生産拠点を構える必要があると考える。

終わりに

カンボジアの縫製業は人件費の安さを武器に低価格商品を展開するファストファッションの製品を大量生産することで、目覚ましい成長を遂げて来た。また、縫製業は製造業と輸出産業に占める割合も高く、好調な経済成長を遂げているカンボジアの牽引産業であると言える。今後、カンボジア経済をより一層牽引していくために、縫製業においては、単純な製品加工を行うだけではなく、複雑なデザイン加工にも対応出来る熟練工を育て、付加価値を伴った製品を生産していくことが必要であると思われる。また、カンボジア経済全体の継続的な成長には、縫製業に偏った産業構造を見直し、輸送機器産業や電気機器産業

等に見られるより付加価値額の大きい製造業の投資先としての優位性を確立していく必要があると考える。